

老朽化のため長年に渡って利用制限をかけていた岸壁(-9m)を、国内貨物の輸送効率化、大規模地震対策としての耐震化及び施設の老朽化対策を目的として、平成19年度より耐震改良工事を開始しました。

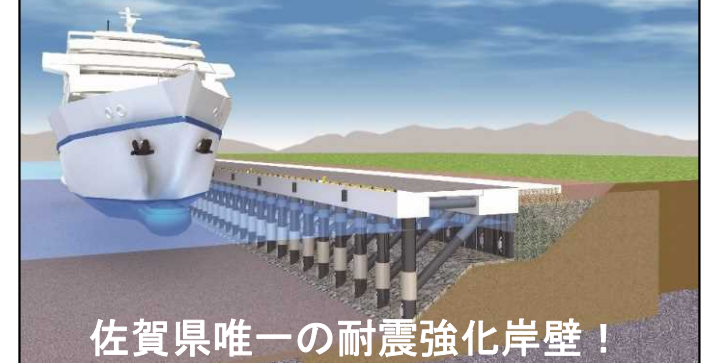
岸壁の耐震改良工事は、平成27年度に完了し、平成28年4月から、水深7.4mで暫定供用を開始しました。現在、航路泊地内の水深9m化を目指し、浚渫工事を実施しています。また、浚渫工事と併せて、防波堤の一部撤去工事を計画しています。

東港地区岸壁には、長崎県壱岐への定期航路フェリーが就航しており、さらにクルーズ船も寄港していることから、人流や物流で賑わうことが期待されています。

複合一貫輸送ターミナル改良事業



格点式ストラット構造



フェリーの着岸

